

学内での活動

次の各授業を担当した。メディア表現基礎 2、メディア表現特論 A、制作基礎、制作演習 A、特別研究、プロジェクト実習（体験拡張環境プロジェクト、福祉の技術プロジェクト、場所・感覚・メディア）、特別研究。一部授業の概要を以下に記す。

1 メディア表現特論 A

「環境」をキーワードにメディア表現・メディア技術を取り扱う授業。カリキュラムが再編成され自身を含む 3 名の教員で協力分担した。当年度はこれまでの地道な活動を大きなまとまりとして、当該授業の枠組みにおいて議論できるフェーズに移行した年となった。これらの活動を紹介するとともに、フィールドワークとして体験実感できる機会を設けた（右図）。技術の急速な発展が暴力的に価値観を変容させる予測を共有し、これについて議論を深めた。またそこから自身のような活動の意味合いについて考察できるよう設計した。

2 プロジェクト実習：福祉の技術プロジェクト（分担）

履修生の活動についての助言や、研究補助員が開発する教材補助装置についての意見交換、支援学校での実践が活動の中心であった。コロナ禍をきっかけに開始した「気軽に情報交換できる場所」も引き続きほぼ毎週オンライン形式で開催、参加した。オープンハウスでは履修生の取り組みや研究補助員の活動などを展示した。

3 プロジェクト実習：場所・感覚・メディア（分担）

当年度はフィールドワークとして、自作した焙煎機でヤーコンの葉を焙煎してみたり、チェーンソーで丸太に切り込みを入れスエーデントーチを作ったりする体験を提供した（右図）。



フィールドワーク（メディア表現特論 A）
穴掘りを人力と重機の両方で行い、技術の功罪について体感したうえで考える



フィールドワーク（プロジェクト研究）
木質廃棄物の活用を考える



剪定クズを木質資源として再利用
枝葉をチップに加工する様子

個人の活動

農業を中心とした活動を継続的に行なっている。当年は特に木質資源の利活用として、庭木の手入れによって発生した木質ゴミを引き受け、チップ化するなどして再利用の可能性を本格的に探り始めることとした（右図）。これまでに軽トラック 30 杯程度を処理した。堆肥やグランドカバーとして活用しているが、長期的には農地の一部で森林のような生物相を育み農作物や果樹への影響を検証したい。

その他の活動

- ・ 補助金 書面審査業務